

# 令和2年度 串間市立秋山小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン：素直で明るい少人数の児童、意欲ある教師集団、学校への理解と期待の姿勢をもった保護者、協力的な地域人材を秋山小学校の教育環境の「よさ」として生かし、教職員が一丸となって児童がしっかりとした夢をもち、夢の実現を目指して頑張る「明るい子、正しい子、強い子」の育成に取り組む。〔4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する〕

評価項目	具体的目標	方策・手立て	自己評価					成果と課題	評価者評価					学校関係者評価委員の意見
			4	3	2	1	総合		4	3	2	1	総合	
へ 明 る 徳 い 育 子 の 充 実 育 成	基本的な生活習慣の定着	1 家庭と連携した基本的な生活習慣の定着を図る指導の充実 ・心からのあいさつを実行し、整った学習環境を整備し、時間を大切に活動を行う。	○					○ あいさつの指導をくり返して行い、定着できている。学習環境の整備については、今後も継続して取り組む必要がある。	○					・ あいさつに関しては、少し離れたところからでも日頃から自ら大きな声で行うことができている、感心します。 ・ いつもの事ながら、あいさつについては完全なものであり、非の打ち所がない。学校卒業後も続けてほしい。 ・ 秋山小の教育環境の「よさ」が十分生かされて実践された結果がうかがえる。 ・ コロナ禍におけるいじめや差別は、児童のみならず大人にとっても身近な問題であり、命の大切さをよく理解した指導ができていた。今後も継続して注視していく必要がある。 ・ くしま学の学習の一環として、6年生が魅力的な町づくりの提言を関係者の前で堂々と発表できたことは素晴らしい。広報誌により、故郷に誇りをもつ学習の工夫と充実が十分図られた発表会であったとうかがうことができる。
	望ましい人間関係の育成	2 生徒指導の三機能を生かした学級経営の推進 ・教職員が、児童に相手の立場や気持ちを意識した実践ができるように教育活動全体を通して指導し、人権教育の充実を図る。	○					○ 学校生活に関するアンケートや教育相談、いじめ・不登校等対策委員会等を通して、児童一人一人の理解を深め、具体的な教育活動の場面で生かしながら取り組むことができた。	○					
	道徳教育の充実	3 道徳の時間の完全実施と充実 ・学校参観日にあわせて、1月に道徳参観日を実施する。 ・全職員で行う心の教育に取り組む。	○				3	○ 1月の参観日では、コロナ禍の状況下におけるいじめや差別について考えることをテーマにした道徳授業を全校一斉に行うことができた。児童のみでなく、保護者も共に考える機会にすることができた。	○					
	体験活動の充実	4 地域・家庭との連携を図った体験活動の充実 ・教育効果を高めるために、地域の素材や人材を生かした学習や活動を積極的に取り入れる。	○					○ 6年生のくしま学では、未来のふるさとのために自分達ができることを考え、行政や事業者に提案して積極的な活動を展開することができた。	○					
へ 正 し 知 い 育 子 の 充 実 育 成	基礎・基本の学習内容の定着	5 授業時間を確保し、基礎・基本の学習内容の定着 ・授業のねらいを明確にし、達成するための指導の工夫を行う。 ・学力調査結果の分析及び考察を行い、指導に生かす。	○					○ 単元全体を見通しながら、一単位時間の中でめあてとまとめの整合性がとれた授業の実践に取り組んだ。またその取組が学力検査結果にも好影響をもたらしている。	○				・ 個別の指導計画に照らしながら指導の工夫・改善を行い、さらに指導後の結果をもとに改善を図りながら指導されることを今後も継続していただきたい。 ・ 個別の指導が行きわたり、十分な教育・指導の成果がうかがえる。 ・ 全員が複数回の相互授業参観を通して、お互いが授業の在り方について意識し合っている組織的な取組がなされている。	
	個に応じた指導の徹底	6 個に応じた指導の徹底 ・個別の指導計画を生かした指導と計画の改善を図る。	○				3	○ 個別の指導計画を念頭に置いて指導の工夫、改善を図りながら実践した。自作問題に取り組ませる場合は、問題のレベルを個の実態に照らしながら実施したい。	○			4		
	読書の習慣化	7 読書教育の推進 ・朝の読書の時間を活用した「くしまっ子読もうよ100冊」を完読する。 ・PTAと連携した家読を推進する。	○					○ 読書の時間を確保することや各教科の学習内容と関連した図書を活用や児童の興味・関心に照らした図書の購入等、環境整備に取り組んだ。	○					
	共通のチェックポイントを活用した授業実践	8 「授業改善の4+4のチェックポイント」を活用した授業改善 ・教師個々の授業及び組織的対応に照らした授業改善を図る。	○					○ 全員が参観授業（相互含む）を年間4回設定し、互いの授業改善について意見交換する等、組織的に取り組んだ。授業構成の在り方について、研修を深めたい。	○					
へ 強 い 育 子 の 充 実 育 成	運動量の確保	9 体力向上プランに基づいた基礎体力の向上 ・教科体育や外遊びの充実で運動量の確保に努める。 ・年間を通じた体力づくりの指導とその成果を発表する機会を設ける。	○					○ 体育の授業だけでなく、各運動月間の取組（一輪車・縄とび・持久走など）や昼休み時間に全児童と職員での外遊び等を通して、体力づくりの充実を図った。	○				・ コロナ禍の状況下でも、戸外での運動をはじめ創意工夫しながら計画的に体力向上を推進して成果をあげていることは喜ばしい。 ・ 先生方の積極的な取組を非常に感じた。またコロナ対策も十分な成果だった。	
	健康習慣の定着	10 基本的な健康習慣の定着と家庭と連携した指導の推進 ・エチケット点検を継続して実施する。 ・「早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち」「立腰指導」に取り組む。	○				4	○ 毎月、生活リズムチェックを通して実態把握と分析を行い、指導に役立てることができた。毎日継続して取り組んでいることで、習慣化につながっている。	○			4		
	食育の推進	11 食育の推進 ・学期一回の「弁当の日」を実施する。 ・栄養教諭と連携した給食指導を通じた栄養指導の充実を図る。	○					○ 弁当の日の取組にレベルの高い児童が多く見られ、全体的に意欲が高まってきている。食への関心も高まるように栄養指導の工夫を図っていきたい。	○					
	保健学習の充実	12 養護教諭と連携した保健学習の充実 ・養護教諭とチームティーチングによる保健の授業を実施する。 ・けがや新型コロナウイルス感染症の情報を共有し保健安全意識を高める指導を行う。	○					○ 計画的に養護教諭とのチームティーチングを行い、より具体的に分かりやすい指導に努めた。今後も感染症対策に関わる正確な情報などを分かりやすく伝えたい。	○					
小 中 高 一 貫 教 育 の 推 進	小中連携、小小連携、交流学習の充実	13 小中連携、小小連携による集合学習の充実、極小規模校同士で協力し合った学習の充実  「くしま学」を生かし故郷を愛し故郷に誇りをもつための学習の工夫と充実 ・「くしま学カルタ」の活用を図る。  学校の教育活動を広報し地域・家庭へ理解してもらうための取組の充実 ・学校参観や施設開放、情報提供等で地域に開かれた学校づくりに努める。	○					○ 今年は北方小と福島小との交流学習等を実施することができた。大きな集団の中で多様な個性に触れることができたことに成果があった。 ○ 年間を通じてくしま学カルタの練習で慣れ親しみ、全校児童で市のカルタ大会に向けた練習や代表選考会に取り組むことができた。 ○ 各種行事等における児童の活動を宮日新聞掲載（8回）をはじめ、学校通信やホームページ等で広報に努めた。地域との交流では、理解と協力を得て制限や配慮をしながら実施できた。	○				4	